

# 西成区全体での取組

## 【ボッチャ】

- ・ 第3回ジャガピー杯ボッチャ大会を開催。  
→ 予選①1/17：18チーム 予選②1/23：19チーム 本大会1/31：24チーム  
\* 本大会出場24チームのうち、22チームは予選勝ち上がり、2チームは第2回大会優勝チームおよび障がい者自立生活支援調整協議会ボッチャ杯優勝チームとして推薦出場。
- ・ 新たな試みとして、子育て関連施設にも参加を呼びかけ。  
→ 3チームの参加につながり、多世代交流のきっかけとなった。
- ・ 福祉関係施設において新たにボッチャ活動が2ヶ所立ち上がった。
- ・ ボッチャサポーター向けにスキルアップ講習会を実施。（11名参加）  
→ 区民と一緒にボッチャ活動の普及、啓発を図る。  
→ ボッチャ活動の担い手として参画できるように、参加の機会づくりを目指す。 1

# 西成区全体での取組

## 【eスポーツ】

- ・ 老人福祉センターにおいて体験会を継続して実施。（5回 105名）  
→ eスポーツ体験を目的に来所されている方も増えており、認知度が徐々に向上している。
- ・ 地域においても体験会を実施し、老人福祉センターを利用していない方もeスポーツに触れる機会を創出した。（7回 74名）
- ・ eスポーツボウリング大会を実施（23名参加）  
→ 3月に今年度2回目のボウリング大会を実施予定。  
→ 大会優勝を目標に、体験会に参加される方も見られた。
- ・ 今後、体験場所や大会種目の拡充を図る。

# 4 地域包括支援センターの取組

## 【西成区圏域】

### ★個人宅を活用した居場所活動

- ・助成金を活用し、いきいき百歳体操用の椅子を購入。  
→活動環境を整備したことで、隔週開催から毎週開催に移行できた。
- ・地域の健康づくりの場として定着。  
→継続的な参加につながり、身近な居場所として機能している。
- ・活動継続に向けた工夫  
→マンネリ化を防ぐために、外部講師を招く等の変化を持たせながら、活動継続中。

# 4 地域包括支援センターの取組

## 【玉出圏域】

### ★担い手が減少している居場所活動の継続支援

- ・ 運営者の負担軽減に向けた話し合いの場を設定。（9名）
  - 今後の活動継続について、意見交換を実施。
  - 他の中心者から「同じ形では関われないが、協力できることはしたい」といった声があり、今後の可能性を確認する機会となった。
- ・ 今後について
  - 運営者の体調面に配慮が必要な状況であるため、引き続き見守りを行いながら、無理のない継続方法について検討を続ける。

# 4 地域包括支援センターの取組

## 【西成区北西部圏域】

### ★男性が参加しやすい居場所づくり

- ・健康麻雀を活用した新たな居場所が2ヶ所立ち上がった。  
→男性の外出機会の創出につながっている。
- 初心者に対し、経験者がルールを教える場面が見られる等、交流が生まれている。
- 麻雀を実施しやすいよう、麻雀台をリフォームする方もおり、役割づくりにもつながっている。
  
- ・今後について  
→モルック等、男性の関心が高いツールも取り入れながら、引き続き男性も参加しやすい居場所づくりを進めていく。

# 4 地域包括支援センターの取組

## 【西成区東部圏域】

### ★ 高齢者施設を活用した居場所づくり

- ・ 地域と交流を図るために喫茶活動をしている高齢者施設が、新たな取組としてボッチャ活動を検討。
  - 施設職員も楽しみながら体験に参加。  
施設利用者にも体験の機会を設けるため、一時物品の貸出対応を行う。
  - 既存の喫茶活動に加えて、新たな活動の立上げは負担が大きく、定期的な活動創出には至っていない。
- ・ 今後について
  - ボッチャサポーターの協力も得ながら、施設職員だけに負担が集中しない運営方法を検討し、居場所の創出を目指す。